



## 更なる運動の飛躍を 全組合員で創り出そう!

### JR東日本労働組合新潟地方本部 第5回定期大会

## 170名の結集で方針を確立!

新潟地方本部は7月23日、新潟市のホテル日航新潟において第5回定期大会を開催しました。170名の組合員が結集する中、職場から創り出したきた取り組みの成果と教訓を確認し合い、向こう1年間のたたかひの方針を確立しました。

## 労働運動の一元化に向けて 一人ひとりが実践しよう

### 岡村執行委員長あいさつ

7月18日からの大雨では新潟支社内の鉄道設備も被害を受けた。上越線も大打撃を受けたが、現場社員の奮闘により20日に運転を再開した。

しかしその過程では、現場無視、運行優先の会社の体質が表れた。現場では雨が落ち着くのを待って調査に入り「運転再開は20日」との見込みを立てていた。しかしその傍らで「19日運転再開」とするサービス品質改革室からの情報が一斉で一方向的に流れてきた。

「TRAIN SUITE四季島」を通すことが理由との話もあり、現場は管理者も含めて怒りで一杯だった。人事賃金制度の見直しから来る会社幹部の自己保身が大きいのではないか。

33発動の乱発や現場の疲弊に目を光らせて、二次災害や死傷事故ゼロを実現する。仲間を通じて安全第一の運行体制を実現しよう。

この1年の職場からの



木村議長(左)・齋藤副議長(右)

## 一年間のたたかひの教訓を全体で確認

運動創りに感謝する。業務的課題の改善を通じた組織の強化・拡大にこだわり実践し、着実に組織強化が図られた1年だった。

1人の声から全体の課題へと高め、申し入れを通じて改善も図ってきた。系統を超えた取り組みにより、運輸系統の団体交渉を通じて設備や営業系統でも改善が図られるなどしてきた。一人ひとりの運動の成果が証明された。

4月16日に開催した「労働運動の一元化を目指す大集会」で、労働運動一元化のスタートを切った。全組合員と共に創り上げた集会だった。

新潟地本の課題は組織拡大だ。5年後の組織を展望し、職場に労働運動を残すため、労働運動の一元化を実現するために今何をすべきかが問われる。組合員1人ひとりが方針を考え実践する組織をめぐり奮闘しよう。

来賓あいさつで中央本部の生田書記長は「あらゆる労働条件・労働環境の総点検行動では他労組に所属する組合員の声も多く届いている。組合員の要求を聞くことは労働運動の原点だ。だから全員に提出うと訴えました。質疑では10名の代議員から発言を受けました。業務課題解決のためのたたかひ、組織の拡大や労働運動の一元化に向けた具体的な取り組み、エルダ制度に関する課題と職場からのたたかひなど、い

## 失敗を恐れず全組合員で実践しよう

### 鳥屋書記長 集約答弁

4月16日に開催した「労働運動の一元化を目指す大集会」は全員参加を勝ち取るという想いが一つになった。ロビー活動の真選び、コメント付け、製作中のオープニングムービーを見ながら感想を出し合うなど支部に活気があった。219名の参加を成果として確認しよう。

組織の拡大を目指すこと、会議や集会など取り組みの「こなし」になっていないか?役員だけの運動、組合員不在の運動となっていないか?など改めて現状を考える必要がある。「普通はこうする」「いつもやっている」など言ってしまうが、組合員一人ひとりとは違う。だから組合運動において「普通」は存在しない。いつもやっている



いずれも教訓に富んだ内容でした。今回の大会で、岡村執行委員長、鳥屋書記長をはじめ、須佐執行委員、山崎執行委員、阿部執行委員が退任しました。

新たに星山執行委員長をはじめとする18名の執行体制を確立するとともに、運動方針など提起した全ての議案を満場一致で確立しました。

組合員と家族そしてJRに働く全ての社員のために、更なる運動の飛躍を全組合員で創り出していきます!



選出された新執行部